



インスピレーションになろう

## 宇都宮ロータリークラブ会報



宇都宮ロータリークラブ 会長 岡崎善胤・幹事 熊本勇治 ID#13888  
テーマ「ロータリーは何をするか？」各々のロータリーの価値を行動しましょう！  
国際ロータリー会長 バリー・ラシン テーマ BE THE INSPIRATION  
国際ロータリー第2550地区 2018-19年度ガバナー 伊東永峯  
テーマ「ポールを語ろうーそれは一人のインスピレーションから始まった」  
例会日 火曜日 12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町 5-12  
事務所 宇都宮市江野町 1-12 栃木実業ビル2F Tel 028-666-0555  
E-mail [u-rc01@silver.plala.or.jp](mailto:u-rc01@silver.plala.or.jp) FAX 028-666-0333

(2019年) 平成31年2月26日 No 30 2018~2019年度 (第3279回会報)

会員数 103名 出席者数 60名 出席率 65.2%

### ビジター紹介 (親睦活動委員会 明賀一博委員長)

熊倉百合子様 (ゲストスピーカー) クマリ様 (米山奨学生)

### 会長挨拶 (岡崎善胤会長)

皆様、例会にお集まり頂き有り難うございます。先週末は、IMにご参加を頂きまして有り難うございました。10クラブの会長によります寸劇があったと思います。私は所用で欠席をしましたので、善林副会長にお願いを致しました。本日、例会の前に臨時のPast会長会議を開催致しました。内容は、当クラブのこれからの方向・地区内のガバナー補佐・ガバナー等の話をさせて頂きました。これからも皆様のご協力を宜しくお願い致します。先週の例会は、映画鑑賞例会でした。映画鑑賞の後、懇親会で皆様と色々なお話をさせて頂き、ロータリークラブもこの様な方向性があるのもよいのではと思いました。ご参加下さいました皆様、有り難うございました。本日も宜しくお願い致します。

### 快出席祝 (出席委員会 稲野秀孝委員長)

田崎秀穂会員 (28年) 喜谷辰夫会員 (26年) 森田浩敏会員 (22年) 岡崎善胤会長 (13年)  
毛塚武久会員 (5年) 神宮厚会員 (1年)

### 米山記念奨学委員会報告 (草野英二委員長)

2月24日、米山奨学生の修了式がありました。当クラブで御世話をしておりましたクマリさんも、卒業の運びとなりました。栃木県で総勢17人の修了生がおりまして、内2人は帰国しております。クマリさんは、栃木県にいらっしゃるということです。クマリさんの報告をお聞きしたいと想います。

### クマリさん報告

皆さん、こんにちは。3月で米山奨学生期間が終わります。これからも、宇都宮ロータリークラブと米山奨学生との関係につながりを持っていきたいと思っています。日本に留学した感想と米山奨学生になってから自分が変わったことについてお話をさせて頂きます。日本に留学してから6年になります。最初日本にはJICAの事で興味を持ちました。今日はJICAの話聞くチャンスがあり、楽しみにしています。私の父がネパールの学校で働いていました。JICAから色々な支援があり、JICAの事を知りました。その時に「将来留学をしたいと思ったら、日本に留学をしてみたら！」と言われました。そこで「日本に留学をしたい」と決意をしました。お父さんに「日本の大学に行って、修士課程を修了する迄頑張ってきます」と約束をしてくれました。日本語学校に入り、宇都宮に住んで不安があり大変でした。「国立大学に入って修士をとり、国に戻る」と考えていましたので、宇都宮の日本語学校を卒業してITの専門学校に通い、2016年宇都宮大学へ研修生として入りました。修士1年生の時、宇都宮大学のタイの先生が毎日のアルバイトと勉強を両立させるのは難



しいと、それで米山奨学生の事を聞きました。そこで米山奨学生を受け、合格しました。それで、今年の4月から米山奨学生として宇都宮ロータリークラブに御世話になっております。宇都宮ロータリークラブに御世話になってから、今迄自分が想像できなかった事、学校以外の事を沢山経験出来ました。私はネパール・タマン族の4人姉妹の長女なので、周りの女の子には大学院まで行く人は多くはいません。高校を卒業したら勉強は止まります。私は修士の入試に合格して「これから夢を達成出来るかな?」と思い頑張ってきました。2018年4月から米山記念奨学生として自分の事だけではなく、ネパールの村の子供達を助けられた事に感動しています。私個人だけでは、可能ではありませんでした。2年生になって、修士論文に集中出来ました。無事期間中に修士論文が終わりました。それが、とても嬉しかったです。2月に入り論文を書いて学校に提出した後、結果が出るまで卒業できるか心配でした。2月5日合格発表があり、先生から卒業式まで頑張ってくださいと言われました。2月19日最終発表がありました。2月25日米山奨学生の終了式がありました。これからも、宇都宮ロータリークラブに御世話になったこと、宇都宮大学の修士を卒業出来た事に誇りを持ち頑張っていきたいと思います。私の先生が「あなたの修士論文の中に、子供の貧困の事を書いているが、それは女性のインペアメントと女性の貧困に関わっていると思います。これからネパールを変えたとしたら、子供の貧困を無くそうとしたり、女性のインペアメントに力を入れてゆきなさい」と言われました。その事を大事にしながら、やっていきたいと思います。私は栃木の会社に就職が決まりました。沢山の外国の女性が働いている会社ですので、その外国の女性の権利の事を含めて通訳と翻訳をしながら、自分の夢「ストリートチルドレンの為に学校を作る」を無くさないよう頑張っていきたいと思います。1年間で勉強になったことが沢山あります。有り難いという言葉では、表現出来ません。今迄、私を育てて頂いて有り難うございました。私のスピーチを終わりに致します。

#### ニコニコボックス委員会（菊地正敏委員長）

誕生 祝：増田仲夫会員

結婚 祝：佐山良一会員

快出席 祝：森田浩敏会員

三井勝滋会員：前回、映画例会をお楽しみ頂けましたでしょうか？ご覧頂けなかった皆様には映画「カメラを止めるな！」の招待券をレターボックスに入れております。

3月8日迄ヒカリ座で上映をしております。是非ご覧下さい。

#### プログラム紹介（プログラム委員長 岸本卓也委員長）

本日の例会卓話は、JICA 国際協力推進員 JICA 栃木デスクの熊倉百合子様をお願いをしております。演題は「JICA ボランティアの活動とその後」です。JICA は、外務省所管の独立行政法人国際協力機構です。前身は1970年に設立された国際協力事業団です。JICA の大切な仕事の中に海外青年協力隊があります。途上国に派遣され、途上国の様々な分野でボランティアとして活動し協力を行なうという仕事です。隊員さんの御世話をしていく事が、一番重要な仕事と聞いています。熊倉さんは、栃木県佐野市出身で県内の中学校勤務をされた後、2008年より2年6ヶ月 JICA 青年海外協力隊としてインドネシアで活動をされました。帰国後、小学校の勤務のかたわら宇都宮大学大学院国際学研究科にて途上国の教育について研究をされています。現在は、JICA 栃木デスクとして栃木県の国際交流協会に常駐されています。2016年から栃木県青年国際交流機構の会長もされています。それでは、宜しくお願い致します。

#### 卓話「JICA ボランティアの活動とその後」

JICA 国際協力推進員 JICA 栃木デスク 熊倉百合子様

皆様、こんにちは。先程、下野新聞社社長の岸本様よりご紹介を頂きました JICA 栃木デスクの熊倉百

合子と申します。本日は、貴重なお時間を頂戴頂きまして有り難うございます。JICA 青年海外協力隊をはじめ、日本の ODA 政府開発援助を担っている組織です。昨年 4 月より下野新聞社国際面にて「世界を聞く」コーナーを連載して頂きました。お読み頂いた方も、多いかと思えます。本日は JICA 海外協力隊、今迄 JICA ボランティアという名前でしたが、名称が変わりまして JICA 海外協力隊になりましたので、そちらの事業を中心に本日はお話をさせていただきます。本日の内容ですが「JICA と JICA 海外協力隊そして青年海外協力隊員として帰国後の隊員について」という事で、お話をさせていただきます。



先ず、JICA と JICA 協力隊です。国際協力機構通称 JICA ですが、Japan International Cooperation Agency の頭文字を取って JICA と呼んでいます。主に途上国への支援を実施している外務省所管の独立行政法人です。国内には 15 の拠点があります。海外には 90 ヶ所の事務所があります。栃木県には JICA 拠点は、ありません。茨城県にあり、JICA 筑波の管轄になっております。私は栃木県担当として、栃木県国際交流協会に配置されています。県庁と連携させて頂き、県民の皆様にも事業を知って頂き、事業に参画して頂き応援して下さい方を増やしていくことを目指し、日々業務に取り組んでいます。これは JICA の国内事業部です。市民の皆様にも、JICA 事業を活用して頂く為の様々なプログラムがあります。県民の皆様・国民の皆様にも最も多くご活躍頂いている事業が JICA 海外協力隊です。

私の紹介です。佐野市みかも山の麓で生まれ育ちました。高校までは、ソフトボールをしていました。地元佐野女子高校からインターハイにも出させて頂きました。今は、国際協力の道にいます。その切っ掛けは、青年海外協力隊でした。78 ヶ国で 2,329 人、今現在世界中に派遣されている青年海外協力隊の人数です。日本からこれだけの人が、途上国で活躍をしています。1965 年派遣開始以来、53,000 人以上が派遣されています。栃木県では累計で 744 人、今海外で活躍されている隊員は 36 名です。先日の下野新聞記事「世界を聞く」は、正にこの活躍中の隊員が現地から送ってくれた原稿が記事になったものです。

JICA 海外協力隊について、お話させていただきます。私は 2008 年から 2010 年迄の 2 年半、インドネシアに教育系の隊員として派遣されました。青年海外協力隊の制度は、開発途上国の人々の為に自身が持つ技術や経験を活かしてみたいという強い意志の方を派遣し、支援する日本政府の事業です。目的として、開発途上国の経済・社会発展・復興への寄与という途上国への支援・派遣を通じて相互理解の進化と共生を図ることです。協力隊は行くだけではなく、戻って来たらスタートと言われています。協力隊の経験を社会に還元することが目的となっています。派遣職種は 120 以上あります。自分の今の仕事・経験に関わらず、自分の得意分野を活かした様々な職種で応募する事が出来ます。栃木県の現在の派遣者は、小学校教育・コミュニティー開発・PC インストラクター・美容師・体育隊員・環境教育隊員等です。協力隊員の応募は、年 2 回あります。派遣は、年 4 回に別れて行なわれます。合格後は、派遣前に福島県二本松市又は長野県駒ヶ根市の訓練所で 70 日間の訓練を受けます。1 つの訓練所に 100 人から 150 人が集まります。主に派遣先の語学や文化、安全管理、健康管理等を学びます。特に語学は集中して、朝から晩までの 1 日中語学漬けです。訓練が無事終了しますと、派遣直前の隊員は県知事表敬や市町村長の表敬を行います。栃木県には青年海外協力隊を応援して下さいする団体が 2 つあります。1 つは、青年海外協力隊栃木応援団です。応援団さんは、県知事・市町村長です。表敬の際に同行頂き、応援団主催の壮行会を毎回企画運営して頂いており大変御世話になっております。もう一つの団体は、青年海外協力隊の OB により構成されている協力隊の OB 会です。

次に私の青年海外協力隊の体験についてのお話を致します。協力隊は、派遣前に基本理念を教わります。共に暮らして心を通わせ、異文化において日本の姿を知り、実践の中で世界を理解する、未来に続く高い志を持ってあまねく人々と平和の道を歩む、この理念は派遣前に教わるものの、派遣前の殆どの

隊員に自覚はありません。但し、今私が思い返しますと、正にこの通りだったなと感じます。この写真は、イスラム教徒の人達が1年の内1ヶ月断食をする、その断食あけの翌朝のお祈りの前の写真です。この中で私1人が外国人ですので、この場の外から写真を撮りました。男女別れて座っています。静寂な時間が流れ、一斉にお祈りがはじまります。この2年間、イスラム教の家庭にホームステイをしていました。6畳位の1部屋を使用させて頂きました。理念通りに3食を共にしました。家庭行事にも家族の一員として参加させて頂きました。出来事の中に日本文化との違いに気付き、理念である異文化において日本の姿を知りました。日本という国を自分の言葉で海外の人に紹介する事で、日本人である事の誇りと同時に、いかに自国の事を知らないか・栃木県を知らないかを痛感しました。異文化に身を置くことで、習慣1つをとっても自分が日本人である事を再認識する機会でした。自分が現地の人と同じ目線で物事を考えられる様に、現地の人ができる事を日本人だから出来ない・しないという事ではなく、そう思われぬ様に必死だったと今改めて思います。正に基本理念の実践の中で、世界を理解する日々でした。青年海外協力隊は日本政府からの派遣ですので、現地政府の省庁や自治体に配属されます。私は、昨年10月に大きな地震があったスラウェシ島の南スラウェシ島に派遣されました。人口約200万人です。首都ジャカルタへは飛行機で約2時間の距離です。日本で言う教育委員会に配属されました。ここは日本の夜間学校のような施設で、文字の読めない人の為の識字教室を開いておりました。私は9つのセンターを巡回しながら現地の先生方と共に授業の企画をしたり、先生方に指導方法の研修をしたりする事がミッションでした。途上国には、まだまだ学校に行けない子供達が沢山います。その中での活動でした。これは民家の軒先で、お話をするという授業です。又施設に行きますと、授業時間内ですが先生もしくは生徒がいない事もありました。幼稚園の一角で、高校生が勉強をしていました。1つの施設に重点的に通いましたが、日本人の私が皆勤賞でした。村の人達と仲良くなり、村の子供達や子供達の家も分るようになりました。この写真は、子供達が学校に向かって歩いている所です。私は派遣される前、足利市内の中学校で教員をしていましたので、途上国の教育に触れてみたい・自分で何か出来ることがあるのではないかと、世界の子供達の為にと、意気込んで行きましたが、あまりにも日本とかけ離れた教育の現状に驚きの連続でした。教育の改善の前に、取り組まなければならない課題が山積みでした。日本語や手工芸等と一緒にやりました。私は約束の時間に必ず行きますので、子供達も少しずつ集まって来てくれるようになりました。教科書は無く、鉛筆1本とノートを持って授業に来ます。教師は通常の学校の先生が副業として来ています。教師側の都合で、先生が授業に来ない場合があります。先生の給料が2ヶ月ぐらい支払われていない様な事も聞きました。聞けば聞く程、自分では手に負えない事も分かり途方にくれる事もしばしばありました。そんな中、私を応援してくれたのは同僚でした。私の授業では、高校を中退した人を対象に、手に職を付けお金を生み出す・学校に行く資金にもつながるという事で、アクセサリ作り・販売方法・運営方法も教えました。ある日、生徒の一人に「勉強が楽しい。教えてくれてありがとう。百合子のおかげで、日本語や数学を勉強するチャンスが出来た」と、言われました。日本では、その様な事はありませんでしたので、とても嬉しかったです。日本では、勉強が楽しいと思って学んでいる生徒は少ないのが現状です。勉強をする事が楽しいという、学ぶ基本を彼らに教えられました。協力隊活動を通じて感じた事は、助けてくれたのは現地の身近に居た村の人達でした。国や文化・民族の違いを超えて、自分を受け入れてくれた・自分も受け入れられたと充実感がありました。第2の故郷がインドネシアになりました。人々の温かさ、少しお節介ぐらいの近所のお婆さんの存在に、どんなに助けられたか又家族の絆の深さを感じました。インドネシアでは、家族を本当に大切にします。私が日本を離れて2ヶ月連絡を取っていないと話すと「そんな不義理な事をしてはいけません。直ぐ電話をかけなさい。両親は心配をしているよ！」と、毎日毎日声を掛けてきました。日本では単身赴任は当たり前ですが、家族第1主義のインドネシアの人には「なんと薄情な」と何時も言われていました。

活動期間2年間という限られた時間で、出来た事は僅かでした。常に葛藤と挫折の連続、楽しいだけ

の日々ではありませんでした。ですが、自分を見つめる機会・自分の価値観の再構築・今後の自分の生き方を考える貴重な時間となりました。JICA 海外協力隊の活動は、現地で課題を発見することからはじまり、その国の課題を現地の人々と協力しながら解決方法を探して行くのですが、日本では思いもよらなかった問題にぶつかり、自分の限界に挑戦し自身と向き合う事にもなります。現場で臨機応変に対応する力・創意工夫力・コミュニケーション力・問題解決の粘り強い交渉力・グローバルな視野・思考の多面的なとらえ方・相手の立場に立っての理解力等の能力も身につきます。その事は、隊員が帰国して気づかされます。又国内の多くの課題・その為に自分も何かをしなければという使命感も生まれてきます。この様に異文化の中で経験をしてきた多くの隊員は、今度は自分の国・自分の故郷に目が向きます。皆様にお配りした封筒の中に、青いパンフレットが入っております。そこに、栃木県出身隊員の現地での活動と帰国後の活動の様子が書かれています。帰国後、若者支援の NPO 活動を展開している方、有機農業家として市貝町で活動している方、済生会病院で活躍されている方、県庁・市役所で経験を活かしている方等様々です。他にも、学校の PTA 会長や自治会の会長をはじめ、地域作りに頑張っている隊員 OB や、帰国後に子供達の未来に関わっている隊員がいます。お時間のある時に是非お読み頂き、このような隊員が栃木県で活躍しているのだとご存じ頂けたらと思いご紹介させて頂きました。栃木応援団さんのご尽力により、今年度から協力隊員が栃木県教員採用試験を受験する際の優遇措置が出来ました。入管法の改正により、今後ますます途上国からの人達が栃木県にやってきます。言葉と文化に精通した協力隊員 OB の方達が、そのお役に立てるのではないかと思います。日本を元気にする人材として、地元で貢献出来るのではないかと思います。本日は、つたない話を最後までお聞き頂きまして有り難うございました。御清聴有り難うございました。

---

### 【2月卓話】

2月26日(火)「JICA ボランティアの活動とその後」  
熊倉百合子様 JICA 国際協力推進員

### 【3月卓話】

3月5日(火)「広告で振り返るガス市場開発の歴史」  
吉田範行会員 東京ガス(株) 宇都宮支社 支社長  
3月12日(火)「とちぎテレビ開局20周年に思う」  
黒内和男様 とちぎテレビ代表取締役社長  
3月19日(火)未定  
福島範治様 栃木県ゴルフ場協議会副会長  
3月26日(火)例会休会

---

=当日の食事=



チンジャオロース  
ライス スープ ザーサイ

会報担当：池田 剛 会員

画像担当：菅谷 隆臣 会員